

## PORTEX・気管内チューブ（シリコナイズド）

### 再使用禁止

#### 【警告】

##### 〈併用医療機器〉

- 呼吸回路を本品のコネクタに接続時及び接続後、直接的又は回転的な過剰な力が本品にかからないよう注意すること [呼吸回路との接続の外れ、チューブ又は呼吸回路の閉塞、気管内チューブの気道からの逸脱の原因となるため]。

##### 〈使用方法〉

- 医師もしくは医師の指示を受けた専門の医療従事者のみが本品を使用すること。
- 本品の挿管前に潤滑剤を塗布する場合は、潤滑剤をつけすぎたり、チューブ内腔が詰まったり、膜ができていないことを確認すること [潤滑剤のつけすぎにより、部分的あるいは完全にチューブを閉塞させ換気が阻害される恐れがあるため]。使用に際しては潤滑剤の取扱説明書に従うこと。

#### 【禁忌・禁止】

- 再使用禁止

##### 〈使用方法〉

- 気管内チューブにスリップジョイント(15mmコネクタ)を接続するときは潤滑剤を使用しないこと [使用中に外れる恐れがあるため]。
- 本品に、噴霧式表面麻酔剤(リドカイン噴霧剤等)を直接噴霧しないこと [製剤の添加物により、マーカが消失する可能性があるため]。

##### 〈併用医療機器〉

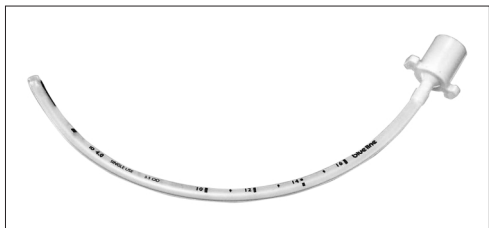
- 電気メスやレーザーメスを使用する際には、本品に触れないこと [チューブ素材(PVC)から有毒ガスが発生したり、高濃度の酸素雰囲気(麻酔時等)では発火する恐れがある]。

- ※本品をジャクソンリース回路及びノーマンエルボー・タイプ(コネクタ内部にガス供給用内筒が患者方向に突出したもの)のコネクタに接続しないこと [デザインによっては呼吸ができなくなる危険性があるため]。

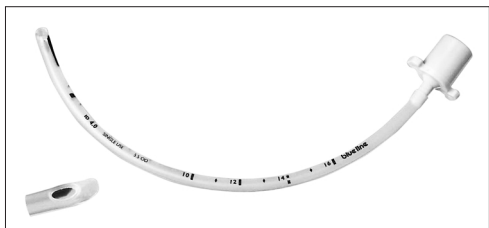
#### 【形状・構造及び原理等】

##### 〈形状・構造〉

100/111/XXX カフなし気管内チューブ（シリコナイズドPVC）



100/141/XXX カフなし気管内チューブ  
(マーフィーアイ付/シリコナイズドPVC)



- 本品のサイズはチューブの内径寸法(mm)で表示し、各タイプのサイズ範囲は以下のとおり。

□カフなし気管内チューブ(シリコナイズドPVC)

2.0mm～9.0mm (0.5mm間隔)

□カフなし気管内チューブ(マーフィーアイ付/シリコナイズドPVC)

2.5mm～7.0mm (0.5mm間隔)

- 本品は、患者の経口あるいは経鼻的に気管内に留置して、患者の呼吸管理を行うために使用することができる。
- 本品は、カフなしタイプで、チューブの材料としてシリコナイズドPVCが使用されている。シリコナイズドPVCは感温性が高い材料であり、患者への挿管前には、適度な硬さを有するため挿管に適する。挿管後には、患者の体温で患者の気道に合った形状となるため気道の損傷を最小限にできる。チューブには、X線不透過ラインが設置されているため、挿管後の本品の留置位置を確認することができる。100/141は、チューブ先端にマーフィーアイを有する。
- 15mmコネクタ付き。

##### 〈原理〉

- 本品は、口腔/鼻腔よりチューブを患者の気管に挿入し、気管の換気を行うことができる。

##### 〈原材料〉

名称	原材料
チューブ	ポリ塩化ビニル

本品は、ポリ塩化ビニル（可塑剤：フタル酸ジ-2-エチルヘキシル）を使用しています。

##### 〈滅菌方法〉

エチレンオキシドガス滅菌

#### 【使用目的、効能又は効果】

##### 〈使用目的〉

気管内挿入用

滅菌済みであるので、そのまま直ちに使用できる。

#### 【品目仕様等】

寸法	15mmコネクタの外径はJIS T 7201-21:1999に適合する雌円すいコネクタと接続可能
----	--

#### 【操作方法又は使用方法等】

- チューブの内腔が閉塞していないことを確認します。
- 本品に付属しているスリップジョイントを確実に接続します。
- 通常の手技に従って経口もしくは経鼻的に挿管します。デブスマーカ、声門マーカは本品を正しい位置に留置する目安として活用してください。

#### 【使用上の注意】

##### 〈重要な基本的注意〉

- 開封前に包装状態をよく点検し、破損、汚染、水濡れ等のあるものは使用しないこと。
- 開封後、本品に外観上異常がないことを確認し、異常のあるものは使用しないこと。
- 開封後、直ちに使用すること。使用しなかった場合は、再滅菌せずに廃棄すること。
- 本品はポリ塩化ビニルの可塑剤であるフタル酸ジ-2-エチルヘキシルが溶出する恐れがあるので注意すること。
- 患者を適切に加湿すること [本品内腔の分泌物の凝固を最小限にし、気管粘膜損傷を防ぐため]。
- 定期的に分泌物の吸引を行い、患者の気道を確保すること。チューブが閉塞していないか絶えず監視し、必要に応じて新品に交換すること。
- 本品が挿管された状態で、患者の体位変換やチューブ固定位置を変更した場合は、チューブが正しい位置(深さ)にあることを直ちに確認すること。気管挿管後は、気管内チューブをテープ等で確実に固定し、位置や深さを絶えず監視すること [気管内チューブが気道から逸脱する恐れがあるため]。
- 挿管後、患者の頭部又は頸部を通常的位置にできない場合は、スパイラルチューブ等、抗キンク性のチューブの使用を熟慮すること [チューブが屈曲する可能性があるため]。

〈相互作用〉

- ・挿管時に使用する器具(喉頭鏡、マギル鉗子等)でチューブを傷つけることがないように注意すること。
- ・呼吸回路との接続時、及び使用中も回路との接続が適切であることを常に確認すること。各接続部にリークや閉塞等がないことを確認すること。接続部の取り外しには、専用の取り外し器具(トラックウェッジ等)を使用すること。

〈その他の注意〉

- ・院内の感染防止の指針に従うこと。
- ・本品使用後は、関係法令を遵守し、適切に廃棄すること。

\*\*\* 一般的に使用するサクシジョンカテーテルのサイズは使用するチューブ内径の50%程度とされています(下表参照)。

PORTEX・気管内チューブ適合早見表

体重・年齢	適合気管内チューブサイズ	推奨サクシジョンカテーテルサイズ	チューブ固定位置		
			経口	経鼻	
新生児	0.7-1.0kg	2.5mm	5F(1.67mm)	7.5cm	9.0cm
	1.1-1.5kg			8.0cm	9.5cm
	1.6-2.0kg	3.0mm	6F(2.0mm)	8.5cm	10.0cm
	2.1-2.5kg			9.0cm	10.5cm
	2.6-3.0kg			9.5cm	11.0cm
3.1kg<			10.5cm	13.0cm	
小児	0-3ヶ月	3.5mm	6F-8F(2.0-2.67mm)	11.0cm	14.0cm
	3-6ヶ月	4.0mm	8F(2.67mm)	12.0cm	15.0cm
	6-12ヶ月	4.5mm		12.5cm	15.5cm
	2歳	5.0mm		13.0cm	16.0cm
	3歳			13.5cm	16.5cm
	4歳			14.0cm	17.0cm
	5歳	5.5mm		14.5cm	17.5cm
	6歳	6.0mm		15.0cm	18.0cm
	7歳			15.5cm	18.5cm
	8歳	6.5mm		16.0cm	19.0cm
	9歳			16.5cm	19.5cm
	10歳	7.0mm		17.0cm	20.0cm
	11歳			17.5cm	20.5cm
	12歳			7.5mm	12F(4.0mm)
	13歳	18.5cm	21.5cm		
14歳	8.0mm		21.0cm		
15歳					
成人	成人女子	7.5mm	12F(4.0mm)	21.0cm	24.0cm
		8.0mm			
	成人男子	8.5mm	12F(4.0mm)	22.0cm	25.0cm
		9.0mm	14F(4.67mm)		
	9.5mm				

- ・チューブサイズ、固定位置はあくまで目安です。チューブの形状及び解剖学的個体差により変化します。身長等の条件を考慮して適切なサイズ、固定位置を選択してください(文献1, 2参照)。
- ・2.5mm未満のサイズにおける推奨サクシジョンカテーテルサイズは示していません。
- ・新生児及び小児でのサクシジョンは注意深く行ってください。サクシジョンカテーテルがスムーズに挿入抜去できることを確認してください。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

〈貯蔵・保管方法〉

- 本品を保管するときは、次の事項に注意すること。
- ・水濡れ、直射日光及び高温多湿な状態を避けて保管すること。
- ・化学薬品の保管場所やガスの発生する場所を避けて保管すること。
- ・保管時(運搬時も含む)は、過度な振動・衝撃等に注意すること。

〈使用期間〉

- ・最長30日間で交換すること。

〈有効期間・使用の期限〉

本品の包装に記載されている「有効期間」までに使用すること [自己認証(当社データ)による]。

【包装】

10本

【主要文献及び文献請求先】

\*\*\*〈主要文献〉

1. Singh NC, Kissoon N, Frewen T, Tiffin N; Physiological responses to endotracheal and oral suctioning in pediatric patients: the influence of endotracheal tube size and suction pressures. Clinical Intensive Care, 1991, 2 (6): 345-350.
2. R. S. Atkinson, G. B. Rushman and J. Alfred Lee; A synopsis of anesthesia, Publishers John Wright. 1993.

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

〈製造販売業者〉

**smiths medical**

スミスメディカル・ジャパン株式会社

〒485-0081 愛知県小牧市大字横内627-1

〈本社〉

〒113-0033 東京都文京区本郷2-38-3

\*\*\*〈問合せ先〉

営業本部 カスタマーサポート TEL (03) 3816-1649

〈製造業者〉

スミスヘルスケア マニュファクチャリング S.A. de C.V.

Smiths Healthcare Manufacturing S.A. de C.V.

〈国名〉

メキシコ

\*\*\*〈被包に記載されているシンボルの説明〉

シンボル	定義
	再使用禁止
	添付文書参照
	エチレンオキサイドガス滅菌済
	ロット番号
	製造年月
	有効期間
	品番
	天然ゴムは使用していません
	可塑剤としてDEHPを使用しています
	高温および直射日光を避けて保管すること
	多湿および水濡れを避けて保管すること
	包装破損時使用不可
	数量